

『授業を面白くする素材としての公共交通』

【株式会社オリエンタルコンサルタンツ関西支社 交通政策部 担当次長 土崎伸】

いきなり私事で恐縮ですが私の妻は小学校教師です。「速さ」を教えるのに自宅にあるプラレールを持って行ったり、自分が妊娠していた時のエコー写真を使って命の授業をしたり、時折具体物を使って授業を良くする工夫をしているのを目にします。学校の先生方は授業準備の時間が取れない中で、抽象的で興味を持たせにくい単元等をどうやって教えたらいいか悩まれているのだと思います。

MM 教育はそこを支援するものであるべきだと思います。良く言われることですが、子どもは交通に興味を示します。また、自宅付近等の身近な範囲に公共交通が存在し、まちと子どもを繋いでいることが多いと思います。そのため、バス車両等を観察したり、実際に公共交通に乗ってまちを探検する等の具体的な体験により、自分の住むまちの様子、どんな人たちがどんな生活をしているのか、生活を支えるためにどんな仕事や努力があるのか、交通によってまちがどう変わっていくのかといった抽象的な概念を理解していくきっかけを与えることができると思います。

このような観点から現在滋賀県では、例えば以下のような取り組みを行っています。

- ・従来のバスの乗り方教室の出前授業を見直し、バス車両をどのような流れで、どんな切り口・発問とともに見せるかについて先生方と意見交換の上で、バス事業者の協力を得て車両観察の機会を設け、学校に一連の単元として進めていただく。

- ・高学年で行うまちの歴史やびわ湖の調べ学習を深める一つの切り口となるよう、まちやびわ湖が物流・交通の変化とともに変わってきたことに気づきを促す教材を、先生方と意見交換を行いながら整理・提供する。

これらは発展途上ですが、一緒に検討している先生からバス車両等を活用したことで「非常に豊かな学習になった」と感想を頂いたり、学年が変わっても継続的に MM 教育の窓口として関わり、現在の学年でも使えないかと考えて下さる先生も出て来ました。

今後も、色々な先生と議論をしながら相互に刺激しあい、それを通じて子どもの学習への興味を深め、それらの継続として将来的な交通まちづくりの発展に寄与できるよう、MM 教育に携わっていきたいと思います。